

# 「手賀沼緊急事態！外来水生植物駆除体験講座」報告

日時：2018年3月11日（日）9：30～15：30

会場：我孫子市生涯学習センター アビスタ 工芸工作室

主催：手賀沼流域フォーラム実行委員会・美しい手賀沼を愛する市民の連合会

## 開催趣旨

11月15日の緊急勉強会「手賀沼緊急事態！考えよう！外来水生植物対策」では、手賀沼ですでに拡大しているオオバナミズキンバイについて、琵琶湖や霞ヶ浦等での駆除活動・対策を聴くことができた。参加者からは行政と市民団体の連携による対策強化の意見と、参画の希望も寄せられた。

手賀沼流域フォーラム調査事業として、美しい手賀沼を愛する市民の連合会は外来水生植物の実態調査を行い、行政や関係機関と協働し駆除活動を行ってきた。これらの活動への理解を広め、ともに活動する人材を育成するための講座とする。

## スケジュール

- 9：35 講義「千葉県内の外来植物問題～県内の主な防除事例と、外来植物の見分け方～」  
講師：千葉県 自然保護課 生物多様性センター 副主幹 奥田 昌明 さん
- 10：55 手賀沼の現状報告「これまでやってきたこと、これからやっていきたいこと」  
発表：中野 一宇 （美しい手賀沼を愛する市民の連合会副会長）
- 11：40～12:00 質疑応答
- 13：00 手賀沼船上見学
- 14：00 手賀沼公園護岸付近 ナガエツルノゲイトウ・オオバナミズキンバイ駆除作業
- 15：00 まとめ（工芸工作室）

## 講義「千葉県内の外来植物問題～県内の主な防除事例と、外来植物の見分け方



千葉県生物多様性センター奥田さんは、まず、陸上の外来植物で防除が成功しつつある茂原工業団地のナルトサワギクの事例と、防除が困難な事例としてオオキンケイギクについて話され、処分方法として「種を落とす前の防除と多年草はできるだけ抜根することが肝要」、「外来生物法では生きたままの運搬は禁止であるが、処分が目的であれば、事前に公表し飛散防止

処置が取られていれば移動可能」と解説された。

続いて、以下を説明された。環境省の生態系被害防止行動計画は8つの基本的な考え方を示しているが、「外来種とはどんなものかの普及啓発と、とにかく早期の対策・対応」が、コスト削減のためにも肝要である。

千葉県で確認されている特定外来生物の水生植物は、ナガエツルノゲイトウ（以下ナガエ）、オオバナミズキンバイ（以下オオバナ）、オオフサモ、ミズヒマワリ、オオカワヂシャ等がある。オオバナは手賀沼では

昨年確認された。オオバナは、水面上を這う丸形の浮葉が成長すると、形態の異なる細長い抽水葉を出す。事前の情報が無いため、特定外来生物は侵入しても拡大するまで気付かれないことが多い。

**法律** (出典)環境省パンフレットより

『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律』  
(外来生物法)

**外来生物法**

生態系等への被害を及ぼすおそれのある生物を特定外来生物として指定し、飼育・栽培、運搬、輸入、野外への放向、譲渡などが規制されます。同じく同法に基づき指定される未特定外来生物は、輸入時に事前届出が必要です。

**外来生物法で規制される事項** これらの規制に違反すると、最高で懲役3年、罰金300万円(個人)又は1億円(法人)が科される場合があります。

飼育・栽培、運搬、輸入、野外への放向・譲渡、譲渡

↑ダメ ↑緩和された ↑ダメ ↑ダメ

オオキンケイギクを刈り取ってすぐにゴミ処理場へ運ぶことが「丈夫な袋に入れて密封した状態」であれば、可能になった。

## 手賀沼の現状報告「これまでやってきたこと、これからやっていきたいこと」

中野から、ナガエ、オオバナ繁茂拡大への取り組みを中心に、ハス群落の拡大抑制実験、オオカワヂシャ繁茂抑制の取り組みについても報告した。



ナガエは印旛沼から亀成川を經由して侵入したと推察される。2012年頃から沼の上流側で群落の繁茂が著しくなり、群落がいたるところでつながり大きなマット状となった。2014年頃より群落が流出、北岸に漂着しボートの航行阻害や手賀排水機場への漂着が起きている。美手連は2014年3月に手賀沼公園内で遮光シート設置による駆除を開始、2016年11月には行政と協働して重機による駆除を大堀川で行った。

2017年6月オオバナを発見し、駆除や侵入状況調査を行い、11月には琵琶湖の外来水生植物対策担当者を講師に緊急勉強会を開催した。その翌日に我孫子新田下流側で重機によるナガエ駆除を実施した。

今後は「特化した協議会・委員会の組織化」「監視・駆除・焼却の計画的進行」「行政・市民の協力、理解の推進」が必要である。皆様にも参加していただきたい。

## 手賀沼船上見学



船上見学では主にナガエとオオバナの大群落について説明した。特に北千葉導水第二機場の浄化用水注入口付近のマット状につながった大群落は、枯れた状態の色の違いで(オオバナ: 赤茶色、ナガエ: 薄茶色) 混在する様子がよく解った。9月調査時よりも群落は縮小し、群落が頻繁に流出していることが予測された。実際、ナガエ・オオバナ群落の漂流とハス群落や杭への漂着があちこちに見られた。



## 駆除作業



手賀沼公園護岸には数日前からの強風でヨシ等の植物片・枝等に混在してナガエ・オオバナが漂着していた。放置すると茎から発根して根付いてしまうため、駆除作業を実施した。

## まとめ

一般参加者12名の他、千葉工大放送研究部6名がYouTube投稿用動画撮影のため参加した。内10名が調査や駆除活動の協力者として登録した。参加者からは、「オオバナの繁殖速度に危機感を強く感じた」「お祭りのようにして人を集めては」「外来種が在来種を駆逐する、交雑することで失われる『日本らしさ』とは何か?失われると何が問題か?ということの説明すべきだ」等の感想・意見があった。